

# コロナ禍における地域連携薬局の役割

○淵村 佳奈<sup>1</sup>、濱邊 恵梨奈<sup>1</sup>、隈元 正太郎<sup>1</sup>、上東 由美<sup>1</sup>、  
楠元 俊英<sup>1</sup> (1. ずずな調剤薬局)

## 背景・目的

ずずな調剤薬局は地域連携薬局として基幹病院、在宅訪問クリニック、近隣の医療機関と積極的に連携することで中心静脈栄養を必要とする医療的ケア児、麻薬持続皮下注（PCAポンプ）を用いたがん末期患者に至るまで幅広く医療を提供し、約100件/月以上の訪問薬剤管理指導を行っている。

2021年12月24日に新型コロナウイルスの治療薬としてラゲブリオ（一般名モルヌピラビル：RNAポリメラーゼ阻害薬）が特例承認されてから、一般医薬品と同様の流通に至るまでラゲブリオ対応薬局として約150件の新型コロナウイルス陽性者の治療に携わった。（2022.2.1-2022.9.30）

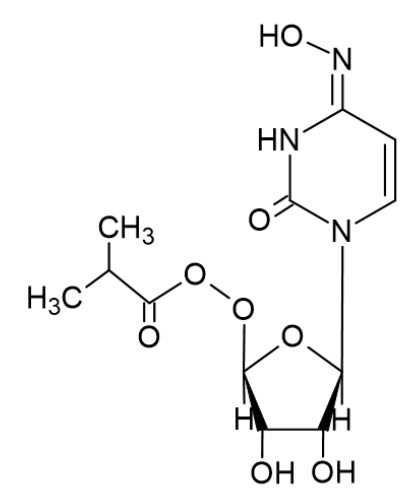
今回、新規承認医薬品に対する地域連携薬局の活動を通して得た結果を評価する。



## 方法

コロナ経口薬ラゲブリオは、特に要支援、要介護を有する高齢者への治療が最も重要と考え、薬局から15キロ圏内の医療機関、主に在宅医療を行うクリニック、基幹病院の地域連携室等に対し、電話やFAX等で薬剤の処方について説明を行った。一方で薬局では在宅訪問時、日常の感染対策、24時間対応の体制構築を行った。

薬局内で陽性者が出た場合の中心静脈栄養の輸液・医療材料の供給について基幹病院薬剤部との薬薬連携、在宅医療における在宅医、訪問看護ステーションスタッフとの多職種連携を行った。



モルヌピラビル（RNAポリメラーゼ阻害薬）

対象患者：重症化リスクのある軽傷～中等症Ⅰの18歳以上  
発症後使用までの推奨日数：発症5日以内  
特徴：妊婦に禁忌、併用注意・禁忌の薬剤なし  
腎機能低下患者にも投与可能。  
有効性：死亡リスク30%減

### 医療機関

- ラゲブリオの情報提供
  - 鹿児島市内の基幹病院の地域連携室、在宅を中心とした医療機関や地域包括支援センターへラゲブリオ対応薬局の存在を電話やFAXで周知。
  - 医療機関側のラゲブリオ対応医療機関の登録方法の説明や処方上の注意。
  - ラゲブリオ処方時のチェックリスト作成と調剤薬局への処方の流れの説明会。
  - 定期的に調剤薬局のラゲブリオ在庫量を報告。

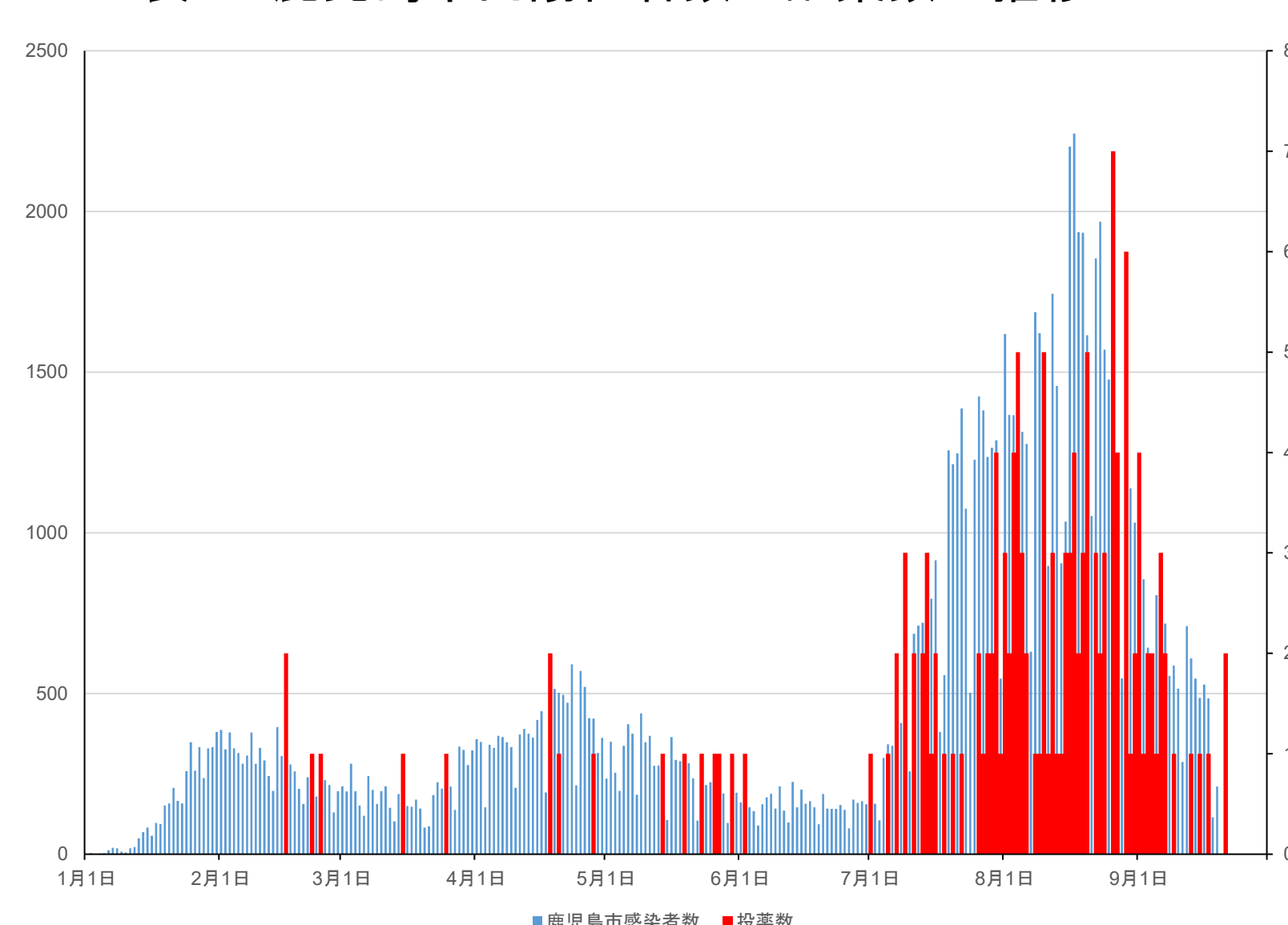
### 調剤薬局

- 薬局閉鎖時の対応
  - （外来）門前クリニックへ鹿児島県内や近隣薬局のリストの共有。
  - （在宅）在宅連携薬局への患者服薬情報提供。
  - （輸液患者）担当医と病院薬剤部との情報共有と患者への対応説明。
  - （麻薬）退院時病院の緩和医療チームとの連携。
  - オンライン対応FAXと携帯電話連絡での24時間体制。

## 結果

当薬局のラゲブリオ対応薬局の実績は、ラゲブリオの投薬患者の9割を鹿児島県内の8か所の在宅訪問を行う医療機関から依頼を受け、投薬後のラゲブリオ服用患者は、服用初日を含め少なくとも患者5名（3%）が亡くなり、年齢層も80代の方が多くを占めた。配薬は遠方で30km、大半が5-10kmの距離であった。

表1. 鹿児島市内陽性者数と配薬数の推移



処方元の医療機関

在宅専門クリニックU：46人  
在宅専門クリニックN：21人  
在宅専門クリニックG：20人  
在宅&外来クリニックS：17人  
在宅&外来クリニックM：17人  
在宅専門クリニックH：6人  
在宅&外来クリニックS：4人  
在宅&外来クリニックN：2人

近隣クリニックN：9人  
（地域：胃腸内科）  
近隣クリニックN：6人  
（地域：呼吸器内科）  
近隣病院：1人  
遠方クリニック：2人

表2. ラゲブリオ投薬患者の年代別投薬数と投薬距離

年代別	～1km	～3km	～5km	～10km	～15km	15km～
20代	0	0	0	1	0	0
30代	0	0	0	0	0	2
40代	0	0	3(1)	0	1	0
50代	0	0	0	1	0	0
60代	2	4	1	5	1	3
70代	3	7	8	4	5	3
80代	1	13	10(1)	17(1)	7	11
90代	3	7	7	11(1)	2	5(1)
100代	0	1	1	0	0	0
計	9	32	30	39	16	24

( ) は死亡数

## 結論

今回の経験から地域医療におけるずずな調剤薬局の重要な役割として今後も未知の感染症や災害等への対応、危機管理能力向上、地域の住民、医療機関への情報発信が責務であると考えられる。

## 謝辞

本活動において御協力していただいた山口東京理科大学 重信 貴央 様に深く感謝いたします。

## 日本薬学会第143年会 利益相反の開示

発表者名： 淵村 佳奈

私は今回の演題に関連して  
開示すべき利益相反はありません。

